



カメムシ発生注意!!

雑草地において、斑点米の要因となる
カメムシ類の生息密度が高まっています。

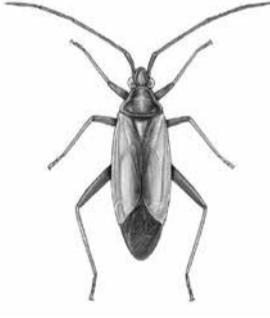
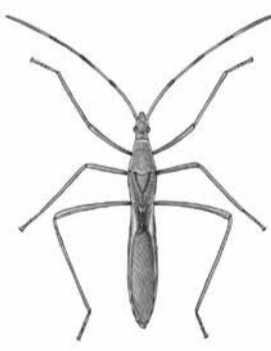
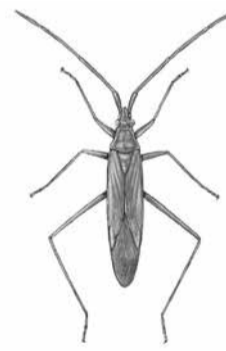
うまい・きれい かほく米づくり運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~7	1. 播種量(うす播きの励行) 2. 育苗日数(健苗の育成) 3. 植付本数(細植の励行) 4. 栽植密度(優良茎の確保) 5. 適正な施肥(栄養凋落防止と登熟向上) 6. 田植え時期(早植えの防止) 7. 中干し・溝切り(遅発分げつの抑制)	
8	除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・7月上旬までの追加除草 ・水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9	水管理 (飽水管理の徹底)	・中干し後から出穂までの約1か月(コシヒカリ)の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理
10	刈取時期 (適期刈取りの励行)	・籾の黄化程度に応じた刈取り

今月のポイント① カメムシ対策：畦畔や農道の除草と仕上げ防除の徹底

【斑点米の原因となるカメムシ類】

近年、飛翔性のクモヘリカメムシが県内でも越冬しています。また、その他の飛翔性斑点米カメムシ類についても平年より多くなることが予想されます。
実際にこのようなカメムシが発生しています。

アカスジカスミカメ	クモヘリカメムシ	アカヒゲホソミドリカスミカメ
 実物大 6mm	 実物大 17mm	 実物大 6mm

【カメムシ防除の鉄則は、①に『適時の除草』、②に『適期防除』】

～①まずは、畦畔・農道の除草を～

畦畔や農道などの水田周辺の雑草地は、斑点米カメムシ類の生息地であり、繁殖地です。
畦畔・農道の除草を7月上旬までに行い、カメムシ類の発生源をなくしましょう。

～②次に、出穂後の適期防除を～

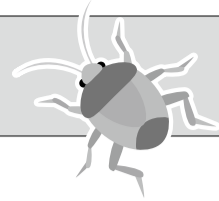
本田カメムシ防除は、水稻の出穂7～10日後と14～17日後の薬剤防除を徹底してください。

カメムシによる斑点米で等級落ちが確認されています!!

斑点米の防止は除草と防除の合わせ技!

今月のポイント② 基幹防除を徹底し斑点米を追放しましょう！

営農の手引き35、52ページも参照ください。



〈粉剤体系〉

月	7月														8月																																																							
日曜日	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18																											
ゆめみづほ	1回目 ビームトレモンセレン 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂3~1日前														2回目 ビームスタークル 粉剤5DL 3~4kg/10a 出穂7~10日後														3回目 ダントツ 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂14~17日後																																									
コシヒカリ	①イナゴ対策														②稲こうじ対策														1回目 ビームトレモンセレン 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂3~1日前														2回目 ビームスタークル 粉剤5DL 3~4kg/10a 出穂7~10日後														3回目 ダントツ 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂14~17日後													

月	7月														8月																																																																					
日曜日	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26																																									
ひやくまん穀	①イナゴ対策														②稲こうじ対策														③紋枯病対策														1回目 ビームトレモンセレン 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂3~1日前														2回目 ビームスタークル 粉剤5DL 3~4kg/10a 出穂7~10日後														3回目 ダントツ 粉剤DL 3~4kg/10a 出穂14~17日後													

- ①イナゴ対策：『トレボン粉剤DL』を10アール当たり3kg散布する（散布時期 6月中旬~7月中旬）
- ②稲こうじ病対策：『Zボルドー粉剤DL』を10アール当たり4kg散布する（近年発生しているほ場、散布時期 出穂14日~10日前）
- ③紋枯病対策：『モンセレン粉剤DL』を10アール当たり3~4kg散布する（多発しているほ場、散布時期 7月上旬）

〈粉剤〉

- 1回目：ビームトレモンセレン粉剤DL：いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、イネツトムシ等（散布後22日以上経過しないと収穫できません）
- 2回目：ビームスタークル粉剤5DL：いもち病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ等（散布後8日以上経過しないと収穫できません）
- 3回目：ダントツ粉剤：カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ等（散布後8日以上経過しないと収穫できません）

〈粒剤体系〉

月	7月														8月																												
日曜日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ゆめみづほ	イモチエース キラップ粒剤 3kg/10a 出穂14~10日前														キラップ粒剤 3kg/10a 出穂直後 ※イモチエースキラップ粒剤を散布した場合は不要																												
コシヒカリ	イモチエース キラップ粒剤 3kg/10a 出穂14~10日前														キラップ粒剤 3kg/10a 出穂直後 ※イモチエースキラップ粒剤を散布した場合は不要																												

月	7月														8月																												
日曜日	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
ひやくまん穀	イモチエース キラップ粒剤 3kg/10a 出穂14~10日前														キラップ粒剤 3kg/10a 出穂直後 ※イモチエースキラップ粒剤を散布した場合は不要																												

〈粒剤〉

- イモチエースキラップ粒剤：いもち病、紋枯病、カメムシ類等（散布後36日以上経過しないと収穫できません）
- キラップ粒剤：ウンカ類、カメムシ類（散布後15日以上経過しないと収穫できません）
⇒粒剤は湛水状態で散布し、3~4日湛水状態を保ってください。

農薬は使用基準を守り、市街地では農薬が飛散しないよう注意してください！

乳白粒防止対策Ⅱ3、4日おきの通水！ 日中の湛水はしない！

今月のポイント③ 出穂後の水管理で乳白粒や胴割粒の発生を防止しましょう！

営農の手引き51ページも参照ください。

- 3～4日おきの通水（田面が常に湿っている状態）で根の活力を維持しましょう。
- 通水はできるだけ夕方に行い、翌朝速やかに落水しましょう。刈取り前5日頃までの継続を！
- 日中の常時湛水は厳禁です！⇒根が傷んでしまい、乳白粒や胴割粒の発生を助長することになります。
- フェーン現象の時は要注意です。天気予報を確認し、フェーン現象の予報が出された場合は湛水して備えましょう。

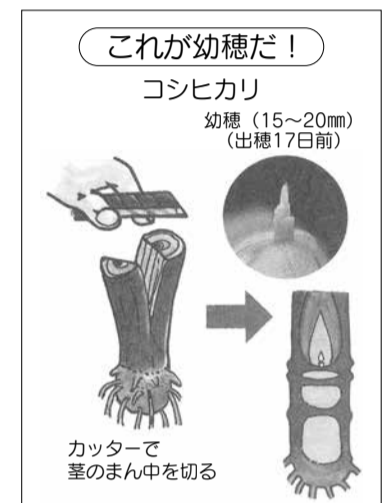
今月のポイント④ コシヒカリの穂肥

営農の手引き50～51ページも参照ください。

コシヒカリの生育状況（管内生育観測田2か所平均、6月23日調査）

草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数		
本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
50.3	61.1	49.7	515	466	475	10.5	10.4	10.0

- 草丈：前年より短く、平年並み
- 茎数：前年よりやや多く、平年並み
- 葉数：前年よりやや多く、平年より多い（早い）



- 必要な茎数は確保されています。
- コシヒカリの出穂予想は、平坦部で7月27日頃、山間部で7月29日頃が見込まれますが、今後の気温が高く推移すると、早まる可能性があります。

①BBコシー発くんを施用したほ場では、穂肥の必要はありません。
⇒基肥一発肥料は時期が訪れると穂肥の成分が溶け出し、葉色が濃くなります。

②分施肥系コシヒカリの穂肥 ⇒穂肥の1回目は幼穂長15～20ミリを確認して施用してください。

	裸地のはっきり見えるほ場（葉色 3.5）		裸地の見えにくいほ場（葉色 3.5～4.0）	
	1回目 BB有機入り いしかわライト550 13kg/10a	2回目 BB有機入り いしかわライト550 13kg/10a	1回目 BB有機入り いしかわライト550 7kg/10a	2回目 BB有機入り いしかわライト550 13kg/10a
	幼穂長 15～20ミリ	穂肥1回目の1週間後	幼穂長 15～20ミリ	穂肥1回目の1週間後
平坦	7月9日～11日	7月16日～18日	7月9日～11日	7月16日～18日
山間	7月11日～13日	7月18日～20日	7月11日～13日	7月18日～20日

※裸地が見えず、葉色が濃い場合は1回目は施用せず、2回目の時期にBB有機入り いしかわライト550 13kg/10aを散布してください。

⇒収量や品質の低下につながるので、2回目の穂肥は省かないでください。

〈幼穂長と出穂前日数との関係〉

幼穂長 (ミリ)	出穂前日数	穂肥施用の指定日
1～2	－ 23日	6日後
3～4	－ 20日	3日後
15～20	－ 17日	基準日

「かほく米トータルコスト低減運動」の実施中

目的：平成30年度まで行ってきた石川かほく米555共励会から引継ぐ運動であり、1俵あたりにかかる生産コストを引き下げ、所得向上を目指すものであります。
目標総生産費を目指し、皆さんに実践のご提案をするものです。

No	項目	具体的なコスト低減の要因	概算低減率
労働費低減	1 流し込み追肥・導入	機械散布や手散布が不要で施肥時間の大幅短縮	追肥作業効率80%
	2 畦畔管理時間の削減	除草剤、抑草剤を組み合わせた畦畔管理による作業時間の削減	畦畔除草作業効率30%
	3 カメムシ防除タイミングの最適化	発生予察に基づく臨機・適期防除、畦畔除草の徹底	防除作業効率10%
生産性向上	水管理の徹底	生育状況と生育環境に適した水管理の徹底による品質の向上	品質向上

コシヒカリ現地講習会日程表

(米米情報に日程表を掲載にて生産者案内とします。)

令和3年7月

月日	曜	時間	集合場所
7月8日	木	午後 5時30分～	元内灘町消防署 裏
7月8日	木	午後 5時30分～	西部育苗センター
7月8日	木	午後 5時30分～	津幡東支店前
7月8日	木	午後 5時30分～	内日角公民館前
7月8日	木	午後 5時30分～	高松運動公園第2駐車場
7月9日	金	午後 5時30分～	中条ライスセンター前
7月9日	金	午後 5時30分～	元河合谷店跡地
7月9日	金	午後 5時30分～	J A 配送センター
7月9日	金	午後 5時30分～	金津保育園前
7月9日	金	午後 5時30分～	箕内集会場前